

令和4年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人静岡市文化振興財団	
施 設 名	静岡音楽館 A01	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業	
内 定 額 (総 額)	11,430	(千円)
	公演事業	11,430 (千円)
	人材養成事業	0 (千円)
	普及啓発事業	0 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ランチタイム・コンサート 梯剛之・プレイズ・ゴルト ベルク変奏曲	令和4年5月26日	出演：梯剛之 曲目：J. S. バッハ：ゴルトベルク変奏曲	目標値	360
		ホール		実績値	334
2	諏訪内晶子 ヴァイオリン・リサイタル	令和4年7月28日	出演：諏訪内晶子 ほか 曲目：R. シュトラウス：ヴァイオリン・ソナタ 変ホ長調 op. 18 ほか	目標値	540
		ホール		実績値	557
3	フランス音楽の色彩、ロマン、そしてモデルニテ	令和4年6月26日	出演：京都市交響楽団 ほか 曲目：C. フランク：交響曲 二短調 FWV48 ほか	目標値	540
		ホール		実績値	412
4	義太夫・鶴澤藤蔵 三味線の世界	令和4年7月9日	出演：鶴澤藤蔵 ほか 演目：近頃河原の達引 堀川猿回しの段 ほか	目標値	420
		ホール		実績値	395
5	アルディッティ弦楽四重奏団 & 野平一郎 (ピアノ)	令和4年9月3日	出演：アルディッティ弦楽四重奏団、野平一郎 曲目：I. クセナキス：アケア ほか	目標値	300
		ホール		実績値	234
6	吉野直子 (ハープ) 池田昭子 (オーボエ) 福田進一 (ギター) ジョイント・コンサート	令和4年10月15日	出演：吉野直子、池田昭子 ほか 曲目：鈴木純明：ラ・モニカの主題によるディフェレンシアス ほか	目標値	420
		ホール		実績値	308
7	JAZZ LIVE 木住野佳子 トリオ	令和4年10月22日	出演：木住野佳子 トリオ 曲目：木住野佳子：極楽鳥 ほか	目標値	480
		ホール		実績値	375
8	AOI・レジデンス・クワルテット	令和4年11月12日	出演：AOI・レジデンス・クワルテット 曲目：A. ベルク：抒情組曲 ほか	目標値	300
		ホール		実績値	216
9	クリスマス★コンサート 森麻季 & 鈴木優人 クリスマス・デュオ・リサイタル	令和4年12月10日	出演：森麻季、鈴木優人 曲目：F. シューベルト：アヴェ・マリア ほか	目標値	540
		ホール		実績値	575
10	ディオティマ弦楽四重奏団	令和5年1月14日	出演：ディオティマ弦楽四重奏団 曲目：L. シュトライヒ：星空の静けさ ほか	目標値	300
		ホール		実績値	204
11	日本歌曲の系譜Ⅱ	令和5年1月21日	出演：幸田浩子、三ッ石潤司 ほか 曲目：成田為三：浜辺の歌 ほか	目標値	360
		ホール		実績値	250
12	子どものためのコンサート サクソフォン・ワンダーランド	令和5年2月4日	出演：Lumie Saxophone Quartet 曲目：高橋宏樹：ウォルタイム・トラベル ほか	目標値	420
		ホール		実績値	457

13	ランチタイム・コンサート 三村梨紗 トランペットの 輝き	令和5年2月16日	出演：三村梨紗、下田望	目標値	360
		ホール	曲目：C. コリア：スペイン ほか	実績値	246
14	オルガン¥500 コンサー ト 夏休みコンサート 浅井美紀	令和4年7月27日	出演：浅井美紀	目標値	480
		ホール	曲目：A. メンケン：輝く未来 ほか	実績値	527
15	オルガン¥500 コンサー ト クリスマス★コンサ ート 三上郁代	令和4年12月3日	出演：三上郁代	目標値	480
		ホール	曲目：C-B. バルバトル：小さな天使 ほか	実績値	545
16	オルガン¥500 コンサー ト スプリング・コンサ ート 新山恵理	令和5年3月11日	出演：新山恵理	目標値	480
		ホール	曲目：L. ハーライン：星に願いを ほか	実績値	541

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>未だ新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、目標として掲げたミッションや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられたものとする。その中でも特筆される事業について以下に列記する。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 室内楽や声楽の公演に、より適した当館の特性を活かし、国内外で活躍する優れた音楽家を招き、市民に芸術鑑賞の機会を提供することができた。 「A0I・レジデンス・クワルテット」（弦楽四重奏） 「日本歌曲の系譜Ⅱ」（歌曲）2. 広く市民に音楽文化に触れる機会を継続的に提供することができた。 「第11回 アマチュア・アンサンブルの日♪」 「オルガン¥500 コンサート」（8月、12月、3月に開催 低価格チケット）3. 地域の音楽団体、学校等教育機関との連携、並びに長期的視野に立った青少年の育成への取り組み、振興。 「子どものための音楽ひろば」（全24回。小学4年生～中学3年生を対処とした講座） 「0歳児からのファミリー・コンサート Vol.6」（静岡市内の高校吹奏楽部が出演）4. 音楽文化・芸術の調査研究、教育の普及と積極的な提供。 「演奏会に係る講演会の実施」当館学芸員による講演会の開催（年6回） 「市内生涯学習センターへの講演会講師派遣」当館学芸員による生涯学習センターへの講座の開催（年6回）
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>乳幼児から小中学生、子育て世代の親、高齢者と幅広い層を対象として事業を、特色を打ち出しながら展開していくことで、地域文化の発展や情操教育、生涯学習に至るまで、静岡市における中核をなす文化施設としての役割を継続的に提供し続けていることは、大きな文化的、社会的な意義を有すると考える。また、室内楽専用ホールとして国内外の一流アーティストから高い評価を受け、多くの再演を望まれていることは、地域の文化資源として高い経済的な意義を有するとともに、地元の若い音楽家を演奏会に起用し続け、開館以来国内外の作曲家に新曲を委嘱し続けていることで、演奏家、作曲家の育成にも寄与している。</p> <p>当館の職員においては、職員自身が講師となり無料で演奏会の周知に向けた講演会を開催し音楽に関する研究、教育普及に努めているほか、地域の音楽団体や老人学級での講演会を開催するなど、職員が業務の一環として講座を実施していることは、全国的にみても特筆に値するものとする。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

公演事業

①ホール内の音響特性を活かした質の高い魅力的な公演の実施

当館の室内楽専用ホールとしての音響特性を活かした小編成で且つ質の高い公演を実施し、聴衆から高い評価を得ることができた。各公演のほぼ 100%に近い満足度がそれを裏付けている。

- ・日本歌曲の系譜Ⅱ 満足度 98.2%
- ・クリスマス★コンサート 森麻季&鈴木優人 クリスマス・デュオ・リサイタル 満足度 98.8%

②ホールからの発信を意識した独創的な公演の実施

開館以来実施している委嘱新作の世界初演を本年度は2公演開催し、独創的な公演として開催することができた。

- ・吉野直子（ハープ）池田昭子（オーボエ）福田進一（ギター）ジョイント・コンサート
2022年度静岡音楽館 A01 委嘱作品 鈴木純明：ラ・モニカの主題によるディフェレンシアス
- ・ディオティマ弦楽四重奏団
2020年度静岡音楽館 A01 委嘱作品 L. シュトライヒ：星空の静けさ
(新型コロナウイルス感染症の影響で初演が延期されたもの)

③特定のジャンルにこだわらない多彩な公演の実施

本年は、義太夫三味線の魅力を存分に紹介した「義太夫・鶴澤藤蔵 三味線の世界」と、ジャズ公演として「木住野佳子 トリオ」の2公演を実施することができた。

④音楽の裾野を拡大するため、誰もが気軽に音楽を鑑賞できる公演の実施

ランチタイム・コンサート2公演（「梯剛之・プレイズ・ゴルトベルク変奏曲」「三村梨紗 トランペットの輝き」）公演では高齢者層から、「0歳児からのファミリー・コンサート」では育児中の方から、「子どものためのコンサート サクソフォン・ワンダーランド」では家族揃って来場された方から、多くの喜びの声をいただくことができた。

⑤パイプオルガン等当館所有の楽器を活用し、かつ市民に親しんでもらう公演の実施

オルガン¥500コンサート3公演を実施。前年度の2公演から3公演に増やし実施したが、チケットは全公演完売し、より多くの市民に当館のパイプオルガンの魅力が浸透してきていることを実感することができた。

- ・入場率平均 70.0%の達成目標に対し、実績値 63.2%となり目標をすることができなかった。来場者のマインドが未だコロナの影響を受けているものとする。
- ・公演満足度 90%の達成目標に対し、実績値 96.6%となり目標を達成した。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

年間を通して様々な事業を実施したが、一部の事業を除き周知期間（広報）、券売期間、事業の実施日と、計画通りに実施することができた。

事業の確定：2021年10月

広報の開始（年間パンフレット発行）：2021年12月

（第1期コンサート（4月～8月）チラシ発行）：2022年1月

（第2期コンサート（9月～12月）チラシ発行）：2022年5月

（第3期コンサート（1月～3月）チラシ発行）：2022年9月

券売の開始（第1期コンサート）：2022年2月

（第2期コンサート）：2022年6月

（第3期コンサート）：2022年10月

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業個々に成果の内容については差があるが、目標としていた収益率年平均50%は達成することができた（実績年平均58.5%）。収入が支出を上回った事業もあり、全体として事業費は適切に執行することができたと考える。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

・当館の設置者である静岡市の所管課と定期的にミーティング（モニタリング）を開催し、事業・施設管理の状況を報告するとともに、市からの要望を聞き、改善・新規実施の要素としている。2022年度は当館の事業に対しては、概ね高い評価を得ている。静岡市のクラシック音楽の拠点としてより裾野を拡げてほしいとの要望があり、「オルガン¥500コンサート」「アウトリーチ事業」「0歳児からのファミリーコンサート」を立て続けに立ち上げ高い評価をうけており、現在も継続して開催している。

・当館の事業の中核をなす「コンサート・シリーズ」のラインナップは、芸術監督が企画会議委員（3名）とともに自身の企画案を持ち寄り構築しており、その創造性、独自性を開館以来保っている。国内外の作曲家への作品の委嘱を毎年実施していることなど、地域文化の発信拠点としての機能を発揮しているものとする。現芸術監督の野平一郎氏は、ピアニスト及び作曲家としての功績のみならず、プロデューサーとしての実績も高く評価されている。

・開館以来、事業制作担当の専門職3名を配し、その任にあたっている。コンサートシリーズの制作からその他事業の企画立案、制作を主な業務としているが、コンサートへの集客を図り理解を深めてもらうための講演会を講師として開催することや、生涯学習センター、高齢者学級、高等学校などへも講師として赴くなど地域の音楽振興の一助となっている。

・主催演奏会へ来場された方の満足度が100%に近い高い水準を維持しており、公演に対する高い評価を示している。

・年間を通して国内外からその世界を代表する音楽家を招聘し、地域文化の発展に寄与している。

招聘アーティスト

梯剛之（ピアノ）、諏訪内晶子（ヴァイオリン）、カミーユ・トマ（ピアノ）、アルディッティ弦楽四重奏団、吉野直子（ハープ）、木住野佳子（ピアノ）、森麻季（ソプラノ）、鈴木優人（オルガン）、ディオティマ弦楽四重奏団、ほか

・公演への誘客を促し、また来場者の理解を深めるための様々な取り組みを実施した。

「A01・レジデンス・クワルテット」公演では、職員（学芸員）2名による演奏曲目に関する講演会を開催。

また、「アルディッティ弦楽四重奏団&野平一郎」公演では音楽評論家の野平多美氏を、「ディオティマ弦楽四重奏団」公演では新作を委嘱したL. シュトライヒ氏を招き講演会を実施した。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

・ 静岡市内の有識者並びに一般公募したメンバーに集ってもらい、当館の運営、事業に対する意見を聴取する市民会議を設置している。委員個別に意見を求め、当館の運営に反映させている。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

(1) 人材における持続性について（事業担当職員）

Twitter、Instagram、Facebook、Youtube といった SNS を活用した演奏会の広報、施設の紹介を事業担当職員により行った。Twitter は即時性、Instagram は公演写真をメインに、Facebook はより深い情報をといた各 SNS メディアに則した情報提供に努め、徐々に効果を表わしている。また、Youtube には事業担当職員による当館所有の楽器紹介（チェンバロ、オルガン）を作成、掲載し続いてピアノ紹介の制作に入るなど、若手担当職員のやる気を引き出している。

(2) 会員組織（静岡音楽館倶楽部）における持続性について

当館開館当初より設置している「静岡音楽館倶楽部」は会員の高齢化が進み、ここ数年微減傾向にあるが、主催公演の内容により入会する方もあることから、事業内容を工夫し現会員の継続と若い世代の新規会員の獲得に向け引き続き努力していきたい。

(3) 経営における持続性について（財源の確保）

施設の更なるサービス向上を図り稼働率を上げ、貸館収入を増やす努力を継続的に行っていく。また、従来のチラシでの事業広報とともに、SNS メディアを積極的に活用し集客とチケット及び貸館収入の増加に努めていく。助成金をはじめとする外部資金の持続的な獲得についても、断続的に情報収集を行いながらその確保に努めていきたい。